

オンもオフも自分らしく！ワーク・ライフ・バランス



信濃川下流河川事務所 総務課 総務係長
事務 間持 亜里沙 2007年度採用
 Arisa Kenmotsu

「育児と仕事の両立を実現し充実した毎日」

担当業務
 職場環境の整備、内外調整、庁舎管理、災害時の後方支援

育児休業取得年
 2015年度に育児休業を取得
 2020年度～2021年度に育児休業を取得

職場環境の整備や内外調整など必要不可欠で多岐にわたる業務を担当しています。部署に関係なくたくさんの職員と接する機会があり、外部との打合せも多々あるため、フットワークを軽く柔軟性を持って業務に取り組むよう心がけています。

8歳、3歳の2人の息子を育てながらの生活は時間に追われて忙しい日々ですが、家族の協力と職場の支えにより育児と仕事の両立を実現し充実した毎日を過ごしています。

第一子では約1年間、第二子では約2年間の育児休業を取得し、復帰後しばらくは勤務時間を1時間短縮していました。小さな子どもは急な発熱が多く、その際には子の看護休暇を取得しています。

上司や同僚の理解もあり支援制度を活用しやすい職場環境です。子供のために休暇を取得することが多くなりがちですが、数ヶ月に1度は自分のために休暇を取得しリフレッシュするように意識しています。

妊娠・出産・育児・介護と様々なライフステージにおける支援制度が充実しています。

男女問わず家庭と仕事を両立している職員がたくさんいます。支援制度が整っていることはもちろんですが、その制度を活用しやすい職場環境であること、また、同僚とは励まし合いながら、先輩には相談に乗ってもらいながら、職員同士が良い関係を築いていることが最大の魅力です。



金沢河川国道事務所 用地第二課
事務 松橋 睦月 2019年度採用
 Mutsuki Matsuhashi

「本人にも家族にも働きやすい職場環境」

担当業務
 公共事業に必要な土地の取得のための用地事務を担当

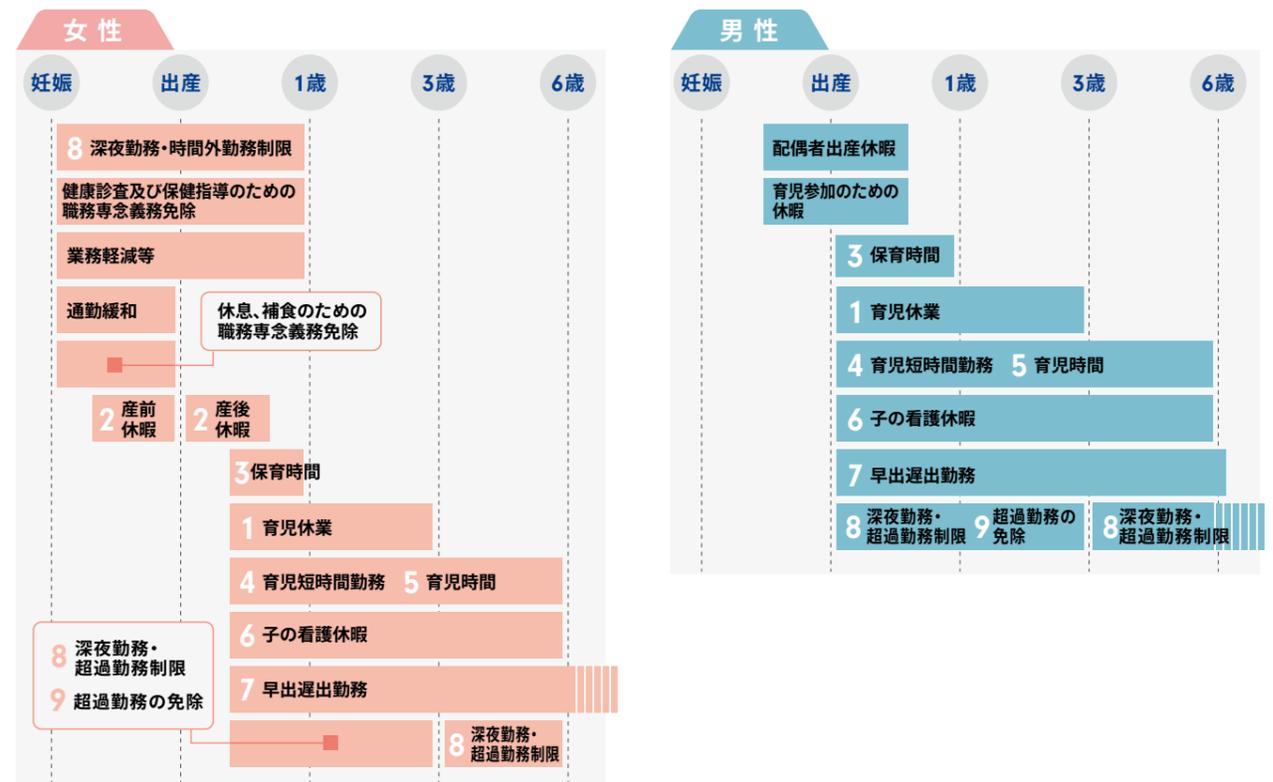
育児休業取得年
 2023年度に育児休業を取得

予定日の少し前から年次休暇を使い、子どもの誕生後に3ヶ月ほど育児休業を取得しました。育児休業を取得したことで、妻の負担を軽減できただけでなく、子どももよく懐いてくれ、家族の絆を深めることができました。復帰後はフレックスタイム制度を利用して、勤務開始と終了の時間を早め、妻と協力して家事や育児をしています。また、休みの日には家族で色々なところに出かけてリフレッシュをしています。

理解がある職場環境のため、男性でも育児休業やフレックスタイム制等の支援制度を使用しやすい雰囲気です。周囲の理解もある職場環境であり、育児休業を取るにあたって、上司に度々相談していましたが、親身になって話を聞いてくださり、あたたかく送り出してくださいました。



利用できる期間(妊娠から就学まで)



利用できる制度

- 1 育児休業**
3歳未満の子どもを養育する場合 ▶ 配偶者の就業等の状況にかかわらず取得可能
- 2 産前・産後休暇**
出産する場合 ▶ 産前6週間、産後8週間(多胎妊娠の場合は産前14週間)
- 3 保育時間**
生後1年未満の子を養育する場合 ▶ 子が1歳に達するまで、1日2回それぞれ30分以内
- 4 育児短時間勤務**
小学校就学前の子どもを養育する場合 ▶ 勤務時間を1日3時間55分(週19時間35分)等に短縮
- 5 育児時間・介護時間**
小学校就学前の子どもを養育又は父母等を介護する場合 ▶ 1日の勤務時間の一部(2時間まで)を勤務しないことが可能
- 6 子の看護休暇**
小学校就学前の子どもを看護する場合 ▶ 年5日(対象となる子が2人以上の場合は年10日)
- 7 早出遅出勤務**
小学校就学前の子どもを養育、放課後児童クラブ等に通う小学生の子どもの送り迎え、又は父母等を介護する場合 ▶ 始業・終業時間の繰り上げ又は繰り下げで勤務
- 8 深夜勤務・超過勤務制限**
小学校就学前の子どもを養育又は父母等を介護する場合 ▶ 深夜勤務は免除超過勤務は月24時間・年150時間以内に制限
- 9 超過勤務の免除**
3歳未満の子どもを養育又は父母等を介護する場合
- 10 介護休暇**
配偶者、父母、子、祖父母、孫、兄弟姉妹等を介護する場合 ▶ 6ヶ月の期間内で必要と認められる期間
- 11 短期介護休暇**
配偶者、父母、子、祖父母、孫、兄弟姉妹等の介護等を行う場合 ▶ 年5日(対象となる要介護者が2人以上の場合は年10日)
- 12 配偶者同行休業**
外国で勤務等をする配偶者と外国において生活を共にする場合 ▶ 3年を超えない範囲

キャリアサポート研修

育児・介護等の理由により合宿研修受講が困難な職員(係員から課長級の全職員)を対象にワークライフバランスなど仕事と家庭の両立を改めて考える機会を提供する研修を実施しています。